

平成 22 年 3 月 1 日

高橋 文雄議長様

秦野市議会秦政会  
会長 高橋 照雄

## 秦政会行政視察調査報告

実施日 平成 22 年 2 月 22 日（月）～2 月 24 日（水）

調査地 鳥取県 倉吉市  
岡山県 総社市  
兵庫県 たつの市

実施者 高橋 照雄・村上 茂・高橋 徹夫・三竹 正義  
福森 登・今井 実

報告書作成者 今井 実



倉吉市役所

調査第 1 日目 2 月 22 日（月）

穏やかな天気の中、全員揃った所で午前 7 時 4 分に小田原駅を出発、名古屋、姫路と乗り継いで午後 12 時 30 分、倉吉駅に到着。宿泊予定のホテルが駅の目の前にありましたので、荷物を預け、タクシーにて視察会場である倉吉市役所に向かいました。実際タクシーに乗ってみて、駅から市役所まではかなり距離がありました。到着後、約束の時間まで、まだ大分ありましたので、市役所やその周辺を見させて頂きました。この倉吉市役所の建物は、あの著名な建築家、丹下健三氏の作品だそうで、昭和 31 年 11 月に竣工、構造躯体をコンクリート打放しで表現した建物であり、その素晴らしから、平成 19 年 3 月に国登録有形文化財に指定されたとの事です。年月が経っていることから、現在修理中では在りましたが、大変趣のある市庁舎で在りました。また、其の市役所に隣接して、打吹公園があります。この公園は、打吹山麓の景勝地を整備したもので、その広さは面積 48.9ha もあり、日本さくら名所 100 選、日本の都市公園 100 選、森林浴の森 100 選に選ばれる、山陰を代表する都市公園の一つと言う事です。そんな公園を散策している内に、時間が来ました。山根 誠議会議事務局長、大西 康浩局長補佐の御出迎えを受け、会議室に案内されました。視察に先立ち山根事務局長から歓迎のご挨拶を頂いた後、高橋会派会長がお礼の言葉を述べられ、視察に入りました。



会議室にて

森石 学商工観光課長と谷田 富穂課長補佐のお二人が説明に当たられ、まず、平成 17 年に隣町の関金町と合併し、一時 5.3 万人になった倉吉市の人口が現在は、5.1 万人と、其の後減少傾向が続き、目下人口減少対策が一番の問題だと、市が抱えている悩みを話された後、本題であります『若者いきいきカフェ事業』、『倉吉レトロまちかど博物館』に付いて説明をされました。現在倉吉市では、江戸、明治期に建てられた白壁土蔵群を重要な観光資源として位置づけ、その積極的な活用による観光振興を図っているとの事で、本日の視察

目的である『若者いきいきカフェ事業』、『倉吉レトロまちかど博物館』に付いての取組みもその一環であると。また、倉吉の白壁土蔵群は、現在、国が選定する国の重要伝統的建造物群保存地区 86ヶ所の内の一つであり、鳥取県では、倉吉市だけであるとの事があります。従って、倉吉市の観光の特徴としては、白壁土蔵群の連続した景観を楽しむ事だと言えますが、他の同様な地域と違う特徴は、単に観光のためだけの景観・建物群で無く、地域の方々がそこで生活をし、商売をし、皆様をもてなすという事だそうです。そして、この白壁土蔵群の地域は、単なる観光の中心地としてだけではなく、法に定めた中心市街地ではありませんが、倉吉市が定める再生が望まれる中心市街地と言った2つの顔を持った地域であり、そう言った意味では、倉吉市にとって特別な地域と言う事です。そこで、先ほど申上げました様な事業の成功事例が、倉吉市にとって観光、中心市街地という観点で大きな影響を持ってくる訳であり、伝統的建造物群、倉吉市の古い街並みを残そうという取り組みは、昭和40年頃から始まり、具体的には、昭和59年に市・地区住民・商工会議所等の関係者により、『倉吉古い町並み保存会』が組織され、この景観を保存し、拡大・活用して、まちづくりに繋げて行こうと言った思い、長い歴史があるんだと、おっしゃっていました。

そして、平成10年4月に株式会社『赤瓦』と言う第3セクターによるまちづくり会社（資本金9,000万円内市が500万円）が設立され、時期を同じくして平成10年12月に白壁土蔵群が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されるという、そう言った意味では、平成10年が倉吉の観光の本格的なスタートと言える年であり、それまで、ただ単に古い建物があっただけのものが、行政と民間が連携し、まちづくり会社を立ち上げ、観光に資する事業を展開する事によって、平成10年まで年間15万人であった入込客数は、20万人、30万人と増え、現在では40万人となっているとの事。また、これは、特定した5店舗のレジを通った人数でのみあり、実数としては、それをかなり上回る筈だともおっしゃっていました。そして、一連の流れとして、倉吉市には全国にも珍



株式会社赤瓦本部

しい仏師さんが住んでおられ、中国5県に居る5人の仏師の内3人が、この倉吉にお住まいとの事があります。そこで、この特徴を生かし、平成14年、『福の神に会える街倉吉で笑顔をお土産に』をコンセプトに、商業者による『あきない中心倉』が発足。商店街に約50体の大小様々な布袋様や大黒様などの木像を設置し、福の神スタンプラリーや街角ギャラリー、お宝市等のイベントも合わせ、観光客の回遊性の向上に努めている所だそうです。



木造の福の神

以上のように、この地域は、『倉吉を象徴する特別エリアとして』平成10年頃から徐々に賑わいを増し、人も増えて来たのですが、そんな状況にも拘らず、地域として、空き店舗の増加、経営者の高齢化、後継者不足による商店会の魅力の低下。また、観光案内所等が近くに無い事による情報発信の不足。更には、すぐ近くに鳥取短期大学があるのですが、そう言った若い人たちを取り込む魅力も無いと言った課題を抱えていたとの事で、そう言った課題（中心市街地活性化、若者の取込み）を解決するために、地元の若者（鳥取短期大学）、地域住民（株式会社『赤瓦』や『あきない中心倉』、商工会議所等）、そして、行政の三者が連携をして、平成17年に『若者いきいきカフェ事業』を立ち上げられたそうです。財政状況の厳しさもあり、市の負担を軽くすると言った考えもあった様ですが、市が単独でするのではなく、何より連携することによって其々の主体性を活かし、継続可能な取組みが期待出来ると判断したからとの事で、若者

以上のように、この地域は、『倉吉を象徴する特別エリアとして』平成10年頃から徐々に賑わいを増し、人も増えて来たのですが、そんな状況にも拘らず、地域として、空き店舗の増加、経営者の高齢化、後継者不足による商店会の魅力の低下。また、観光案内所等が近くに無い事による情報発信の不足。更には、すぐ近くに鳥取短期大学があるのですが、そう言った若い人たちを取り込む魅力も無いと言った課題を抱えていたとの事で、そう言った課題（中心市街地活性化、若者の取込み）を解決するために、地元の若者（鳥取短期大学）、地域住民（株式会社『赤瓦』や『あきない中心倉』、商工会議所等）、そして、行政の三者が連携をして、平成17年に『若者いきいきカフェ事業』を立ち上げられたそうです。財政状況の厳しさもあり、市の負担を軽くすると言った考えもあった様ですが、市が単独でするのではなく、何より連携することによって其々の主体性を活かし、継続可能な取組みが期待出来ると判断したからとの事で、若者



元いきいきカフェ（現在観光案内所）

そのものを地域の資源とみなして地場製品の活用等を一緒になって取組んで行く地域資源活用の場として、地域商品の開発・研究と言った、商業活動活性化の核としてまた、観光案内・ボランティアガイド育成等、観光地としての魅力向上の場として、更には、ソフト事業の推進や空き店舗の具体的な活用と言った、若者の雇用創出の場としての4つの機能を持った複合的な施設として、白壁土蔵群で一番立地の良い所の空き店舗を活用し、若者いきいきカフェ事業を実施したとの事です。ちなみにこの事業は、国の全国都市再生モデル調査事業に申請し、平成17年にスタート、国からの600万円の補助金を始め、県、市の補助も頂きながら、平成19年で終了したとの事です。

成果としては、事業が終了した後も鳥取短期大学では、更に地域に交流して行く組織を立上げ、広域的な取り組みを始められた事。若者の雇用創出と言った部分では、県がその必要性を認識し、新たなジョブカフェに県が出向き週2回ほど若者の雇用の相談に乗る様になった事だそうで、結果として、元のカフェには、現在観光案内所としての機能だけが残った訳ですが、お陰で観光客の入込み状況や観光客の反応、要望また、駐車場の状況等が分かるようになり、商店街にとって情報管理の上で、非常に役に立っているとの事です。

次に、『倉吉レトロまちかど博物館』に付いて概要を説明されました。先程の『若者いきいきカフェ事業』を進める中で、実際街中に入る事によって、その特性、資源等が見えて来た。そこで、具体的に観光振興を進めるに当たり、お金を掛けずに何が出来るかを考えた時浮かんだのが、『倉吉レトロまちかど博物館』だそうです。そこで、平成19年に『遥かなまち倉吉創造プロジェクト』と言う、この先4~5年、どういう方向性に向かって何をしていくのか、どういう方向性を見ながら街を色付けて行くのかを示した観光に関する具体的なアクションプランを作成され、それまで素材はたくさんあるが生かし切れていなかった、また、観光地として広がり無く滞在時間が短い。結果、



赤瓦の造り酒屋

経済効果として街に還元出来ていなかったと言った所を、先程の説明にもあった様に、株式会社『赤瓦』、『あきない中心倉』また、県から指定を受けた景観・歴史等により地域イメージが広がり、人も増えてきたのを契機に、この街には江戸、明治、大正、昭和にかけてのたくさんの景観・資源・暮らしがある訳で、その時代のそれぞれの個性を活かし、昭和レトロではなく、あえて倉吉レトロとして名付け、まちづくりに取入れ、倉吉



レトロな看板たち

にしか無い地域素材を使った着地型の観光商品の開発も、合わせ実施したそうです。この事業は、観光的にもそう言った意味で人にピーアール出来るものであり、何よりその主役は地元の商店主の皆さんであるという事です。中心市街地と言う事で、かつては相当な賑わいがあったが、今では人の往来が少なくなりそれを待っている商店主の皆さん、その商店主の皆さんそのものが、自分のお店の中で、代々大切に守って来た宝物や懐かしい物を展示（一店一宝）し、それを学芸員としてお客様に紹介すると共に、自慢の商品を一店一品として販売する。地域や行政も店の中に福の神の木像等、そういった仕掛けをたくさん

作っている訳で、今度はそれをビジネスチャンスにして頂きたい。そう言った事の繰り返しの中から賑わいを作っていきたい訳で、平成19年スタート当初の26軒から現在では、60軒を越えるお店の協力を頂きながら事業を進めている所だそうです。しかしながら、その取組みもまだまだ不十分で、商店主の方々と気持ちが一つになれていない所があり、絶えず商工観光課の職員が其々のお店に出向き、日頃から信頼関係を結びながらやっている所だそうです。また、イベント等も白壁土蔵群周辺では、年間数え切れない程実施しており、特別サービス事業として連携を取って、ちょっとしたサービス、プレゼント品の販売等を商店の方でやってもらう。例えば、昨年の春などは、5万人程の入場者数があった、博覧会に訪れた際の半券を持ってレトロ博物館のお店に行くと1割、2割と言ったサービスやプレゼントが受けられると言った様な、



兄弟？

街全体が一体となって賑わいを作る仕掛けをしており、今年の春もそう言った取組みをして行きたいとおっしゃっていました。そう言った中で、昨年度、あえてお客様があまり行かないであろう中心地から200m離れた空き店舗を借りて、『倉吉レトロ館』というものを作ったそうです。この『倉吉レトロ館』には観光協会が市民や職員から寄贈を受けた懐かしい宝物が多数展示してあるそうで、一つの核として観光客の回遊を狙ったものだそうです。そう言った努力を続けておられる訳ですが、倉吉の観光振興は、まだまだ始まったばかりであり、財政的にも厳しい状況であり、決してお金を使うのではなく、地域にある財産を有効に、また、其々の地域の方々と役割分担を保ちながら、一緒になって連携を図り、観光の推進を図っている所だと結ばれました。

説明の後、会長から質疑より、現地を良く見たいとの希望で、早速『倉吉レトロまちかど博物館』に。市役所の近くと言う事で、谷田課長補佐と商工観光課の佐藤さんにご案内頂き、徒歩で向かいました。名前の通り、パンフレットで見た通り、正にタイムスリップであります。金沢の時は、どちらかと言うと豪華と言った感じでしたが、こちらは、庶民的というか、どこか懐かしい感じがしました。日本人なんですね、何か街並みを見ているだけでほっとします。少し生活してみたい気がします。きっと心も穏やかになるんでしょうね。



倉吉レトロ館

それから、冒頭で説明しました打吹公園は、谷田課長補佐の説明によると東京の日比谷公園に次いで、日本で2番目に古い都市公園で約100年の歴史を持ち、昔の馬車道がそのまま残っているそうです。また、ここ倉吉市は、関東でも良く知られている南総里見八犬伝の里見忠利公終焉の地であり、大相撲で横綱であった琴桜の生まれ故郷でもあるんだそうです。案内に従って白壁土蔵群の街並みを歩きます。造り酒屋、醤油屋、木地屋と言った街並みにピッタリの商店あり、昭和6年建設の元銀行や木造の3階建ての建物ありと、懐かしい街並みは、時間を感じさせません。しかし、時間が早いせいか、週の頭の月曜日のせいか殆ど

倉吉レトロまちかど博物館と市役所が近いという事で、市役所の駐車場そのものが観光駐車場だそうです、手前と奥で300台から400台駐車出来るとの事です。



裏通り



大蓮寺近く

人を見かけませんでした。醤油屋さんにお邪魔しました時ですが、フーテンの寅さんの大きな写真が飾ってあり、お尋ねした所、男はつらいよ 44 作目は、白壁土蔵群で撮影が行われたそうです。メイン通りばかりでなく、裏通りも素晴らしい植栽、川のせせらぎに、色とりどりの鯉と、大変趣がありました。一周して帰り道、観光案内所近づくに従って観光客の数が増えて行きました。観光案内所に付いた時は、大きなバスも駐車場に止まり、年配の観光客が大降りてきました。その中に、観光案内の方を見つけ、あの方は観光ボランティアの方ですかとお聞きしましたところ、以前はおられたようですが、今は、全て有料でシルバー人材センターに統一、1時間 1000 円で、観光ガイドをされているとの事でした。以上で視察を終了し、お礼のご挨拶を申し上げ、タクシーにて宿泊のホテルに向かいました。午後 4 時ホテル着

人を見かけませんでした。醤油屋さんにお邪魔しました時ですが、フーテンの寅さんの大きな写真が飾ってあり、お尋ねした所、男はつらいよ 44 作目は、白壁土蔵群で撮影が行われたそうです。メイン通りばかりでなく、裏通りも素晴らしい植栽、川のせせらぎに、色とりどりの鯉と、大変趣がありました。一周して帰り道、観光案内所近づくに従って観光客の数が増えて行きました。観光案内所に付いた時は、大きなバスも駐車場に止まり、年配の観光客が大降りてきました。その中に、観光案内の方を見つけ、あの方は観光ボランティアの方ですかとお聞きしましたところ、以前はおられたようですが、今は、全て有料でシルバー人材センターに統一、1時間 1000 円で、観光ガイドをされているとの事でした。以上で視察を終了し、お礼のご挨拶を申し上げ、タクシーにて宿泊のホテルに向かいました。午後 4 時ホテル着



福に福、めでたい



あきない塾

白壁土蔵群の中にある、市が貸し出している将来独立を目指す人のチャレンジショップです。



珍しい木造 3 階建て



白壁土蔵群の先の商店街

白壁土蔵群の並びにあり、このエリアの活性化にも近々着手するとの事。それが出来れば白壁土蔵群と合わせ、素晴らしい観光スポットになります。がんばれ！

早めの朝食を取り、7時58分倉吉駅を出発。今日も春のような穏やかな天気の中、伯耆大山・備中高梁と乗り継いで12時30分過ぎ、本日の視察地である総社駅に到着。途中伯耆大山で、霧のため電車が大幅遅れ視察に影響が出るのではと心配しましたが、事務局の臨機応変な対応で、事無きを得ました。感謝。倉吉から伯耆大山、備中高梁に行く車窓からは、大山の雄大な姿を見る事が出来ました。単独峰の様に遮るものが無く、悠然とそびえるその姿は、車窓から見ても素晴らしいものでした。其の大山ですが、皆で一つ気付いた事がありまして、ある方向から見ると富士山そっくりだと言う事です。本当に見間違えるほど良く似ていました。それともう一つ、日本海側と言う事で雪があるのかなと思っていましたが、大山以外には、雪は見当たりませんでした。富山や新潟と言った、もっと北国の事だったのでしょうか、あの大雪は。



会議室にて

そうこうしている内に、無事総社市に到着し、議会事務局森さんの出迎えを受け、視察会場である総社市役所に到着しました。時間が押していた事もあり、早速会議室に入りました。まず角野 正明事務局長のご挨拶を頂き、その後、高橋会長がお礼の言葉を述べられ、研修に入りました。本日の視察の議題は、商店街活性化事業 市民文化祭『れとろ一ど』に付いてであります。進行役に守屋 正道事務局次長、説明員として文化課主幹の板野 誠氏、文化協会理事でNPO法人吉備野工房『ちみち』の理事長でもある加藤せい子氏が紹介され、具体的な説明に入る前に観光も含め総社市を紹介したDVD

を10分ほど流された後、板野文化課主幹から総社市文化協会の概要について、説明がありました。まず、文化協会は、市内の文化団体が互いに連携し、その発展・強化を図ると共に、本市の文化活動に協力し、地方文化の向上に寄与することを目的として、昭和33年5月に設立、平成20年に創立50周年を迎え、その会員数は、現在個人が37名、団体が22団体797名の計834名であると。そして、その主な文化事業としては、昭和51年から毎回著名な講師をお招きして年4回ほど実施している市民大学講座、昭和55年から始まった茶会と写生大会を改め、平成14年から子供を対象にした吉備再発見写生大会、同様に子供を対象に平成18年から雪舟が生まれ修業をした宝福寺で、雪舟を思い体験する雪舟体験学習、また、昭和35年から実施していた市民文化まつりを改め、平成17年から参加者自らが企画・運営する市民文化祭、そして、今日の視察のメインである『れとろ一ど』であると説明されました。

そして、いよいよ加藤理事長の番であります。何処の視察にお伺いしても普通は男性で、今まで女性の方がされる事は無かったのですが、そのせいか全員いつもより真剣に聞いていた様であります。何故かと言われても理由はあまり言えません。しかしどうでしょう、秦野市もお見えになった視察団に、女性の職員が説明にあたられたら、成果も上がる様な気がします。余談はさておき、

冒頭、文化協会の理事になったのは4年前からであり、『れとろ一ど』を始めた頃は、まだ理事でも無く、企画委員として参加をされていたそうです。また、お父様が、広島県神石高原町で25年間に渡り町会議員をされていたとの事で、我々視察団を見てお父さんもそうだったのかと思われ親近感を持たれた様で、こういった機会を頂き大変ありがたいと、自己紹介を兼ねお話をされました。そして、『れとろ一ど』に参画するきっかけとなったのは、平成11年に起きた榊原生徒事件(小学生を誘拐して、生きたまま首をチェーンソーで切断し、



会議室にて

その首を通っていた小学校の校門に飾った凄惨な事件)の時、大人たちが子供たちを無関心だとか、無感動だとか、無気力だと評論していた。しかし、その批判をしている大人たちが本当に生きているだろうか、子供たちに背中を見せているだろうかと感じた時に、自分自身も評論家になっている事に気付き、ボランティア活動に参加しグループを立上げ、まちづくりに参画をされたそうです。そのグループは、夢空間 21 という女性ばかりのグループですが、その実績として、1000 人規模のコンサート (年 4 回)、教育フォーラム、酒蔵コンサートという企画を開催したり、おしゃべりの場『陽だまり』を作ったり、情報誌を作ったりという活動を積極的にされて来た。市民文化祭『れとろ一ど』もそうした活動の一環であり、そういった活動が市にも認められる様になり、教育委員会から、今までやっていた市民文化祭りを新しい形に変えたいと、相談を受けたのが始まりだとの事でした。そして、ちょうどその頃総社宮の門前町として栄えて来た昔ながらの景観の残っている商店街を使って、文化の発信をして行きたいと考えていたこともあり、提案したところ、その時文化協会の副会長であった宝福寺の住職が、背中を押してくださり商店街を使った『れとろ一ど』という企画が出来る事になったのだそうです。新規事業を『れとろ一ど』と名づけた理由に付いては、昔と今と未来を繋ぐ一本の道と言うことで、昭和 30 年代頃の人との関係とか活気とか温もりとかいった空気を再現して行けば、街が活性化していくのではと思い名付けたと言う事であり、実際事業の中では、30 年代をイメージして絵画の展示、生け花の展示、コンサートや備中神楽、路上パフォーマンス等を開催しているとの事です。



加藤さんの説明

事業のスタートは、2005 年。土曜 (10 時~9 時)、日曜 (10 時~4 時) 2 日間の開催で、初年度は、周知不足等もあり約 3000 人のお客様、そして、年々増え 5 年目の昨年度は、2 万人を超えたという所だそうです。祭りの準備等についてですが、寒冷紗と言う商店に掛ける垂れ幕や案内標識 (河原の石等) 作り、商店街の倉庫を借りた映画館 (祭りの 2 日間だけ) 作り等、最初は全てボランティアの手作りでやっていたそうですが、回を重ねて行くうち、コミュニケーションを取って行く内に、今では商店街の人達も手伝ってくれるようになったそうです。目に見える効果としては、まだ 1 店舗ですが、祭りに模擬店として参加してくれた人が商店街に店舗を構えて

くれた事、閉めようとしていたお店のおばあちゃんが、『れとろ一ど』の賑わいによって営業を続けてくれる様になった事、また、『れとろ一ど』が近づくると町が綺麗になるといった変化が見られるようになった事、更には、新聞、ケーブルテレビ等がたくさん取材をしてくれるようになり、それによって祭りに参加する若者たちが増えたことを上げられました。それから、『れとろ一ど』の特徴としては、祭りちょうちんやろうそくを使ったビードロビンによる明かりがとても綺麗で、夜が賑やかな事。それと、2 年前から市長が、祭り会場内にある平安時代を期限とし総社市のみならず、岡山市、倉敷市、清音村、山手村など 5 千 ha の農地を潤す十二ヶ郷用水で井上陽水をもじって、ザ・十二ヶ郷 陽水ライブと称し、弾き語りをされ、これが大変好評を博しているとの事でした。『れとろ一ど』成功の要因の一つは、当初より良い事だと理解をして頂き、長年商店街活動をされ、商店街をよく知っている亀山さんという方の存在、協力であると。その亀山さんのお宅はというと、大正時代から呉服屋を営まれていたそうですが、既に 2 階は倉庫になっていたため皆でそこを整理、リフォームし、カフェ&ホールに生まれ変わらせたそうで、今では『れとろ一ど』の時だけでなく、2 ヶ月に一度コンサートが開催されているそうです。これも『れとろ一ど』のひとつの成果であるとおっしゃっていました。更に 2008 年には、ボランティアで参加してくれていた女性が、人も住んでいなかった空き店舗で生活し、週末だけとはいえギャラリー&カフェを開いてくれる様になった事も、思いもよらない成果だとおっしゃっていました。そして、思いもよらない成果はさらに続き、昨年 2 月には、『れとろ一ど』を見て参加したいと、これも使えず空き店舗になっていた所を、文化教会の協力を頂いてタイのカレー、雑貨を売る店が、オープン。また、自分達 NPO ちみちでも、昨年の 10 月から空き店舗を活用し、コミュニティーカフェとして週 2 回、特産

品の玉豆腐を使ったぜんざいや特産品の販売等の店舗を運営しているとのこと。『れとろ一ど』を始めた事による一番の大きな成果・効果は、人が住み、賑わいが増した事であり、何より自分たちがボランティアではやりきれないということで、NPO を立ち上げたことだそうです。

しかし、これまでの商店街の人たちだけではない文化協会、青年部、商工会議所とかを交えた新しいコミュニティの形成が出来た事や高齢者の方たちが、『れとろ一ど』になると率先してお花を活けたり、掃除をしたり、案内をしてくれたり、駐車場の係りをしてくれたりとか、準備・片づけまで生き生きと参加をしてくれる様になった事。また、『れとろ一ど』を通して今まで居なかった大学生や高校生と言った若い人たちが参画をしてくれ、地域と関わってくれる様になった事など成果がある一方で、今後の課題として、2万人の人が歩くにも拘らず、どうしても歩行者天国に出来ない事。参加する店舗が40から100店舗に増えたことにより、その確保や新規の出店の問題。



活発な質疑

また、それに伴う駐車場確保の問題。ゴミ箱を置かず、持ち帰りをお願いしている事によるごみ対策等があるとの事です。そして、最も悩む事が、初めて5年が経ち、今では『れとろ一ど』は、県内では知らない人は居ないと言われる位にまで有名な文化イベントに成長し、『れとろ一ど』と言えば皆昔を懐かしんで、喜んでくれ、人々も笑顔に成る。そう言った意味では、活性化が出来たといえるが、まだ経済の循環、つまりその活性化が地域商店街に、経済効果として現れていない事だと言う事です。そこで、これかの5年間は、新たな商店街の形成、コミュニティがビジネスとして成り立ち、ボランティアではなく、仕事として取組む事が出来る様に盛り上げていく事が、これからの課題であると結ばれました。

その後、質疑に入りました。

先陣を切ってというか満を持してというか、先輩議員が、『れとろ一ど』の2日間の日程について質問され、9月の長期連休の後の第4土・日の開催で、今では学校等からも事前に連絡があり、運動会などと重ならない様に調整していますと答えられましたが、今日の某先輩は何故か元気でありまして、更に、説明者の加藤さんに30年代と言えはわれわれ団塊の世代ですが、加藤さんのお年もそうですかと質問しました。加藤さん苦笑いをされながら、皆さんよりはちょっと若いと思えますよ、と答えられました。周りからは、あまりの感の悪さにブーイング（一同笑い）が出ていました。30年代と言われるのでそうじゃないかと思ったのですがと、更に食い下がる某先輩に、自分の年がではなく、高度経済成長の時代に置き忘れて来た物を、置き去りにして来たあの時の想い・気持ちといったものを、思い起こしたほうが良いと言うことで、30年代をイメージしたんですよと落ち着いて（我慢して？）答えられました。先輩の様子とは言えば、大変嬉しそうに質問されていました。やれやれ。次に商店主の平均年齢や事業を始めてからのその辺の若返りはどうでしょうかとの質問があり、若い商業者たちは、総社駅の先に来たリブと言う集合店舗の方に出て行ってしまい、結果、70代80代と言ったお年寄り残り、自分達じゃ何にも出来やせんと言っておられたのですが、『れとろ一ど』が始まって外から若い人たちがやって来て、手伝ってくれたり、空き店舗で店を開いてくれたりとかした事によって、喜んでくれ、やって行こうと言うようになってくれました。つまり今の所は店を継ぐという形ではなく、新しい若者が、外からやって来て、活性化している、違う形のコミュニティとして街が再生して行くという事です。次に、加藤さんの様な方が、何人位居たらこの様な事が出来るのでしょうか、との質問には、3人から5人いたら出来ると思えます。更に、秦野市もご多分にもれず、郊外型の大型店舗が増え、中心商店街は、衰退の一途をたどっている訳ですが、その辺をどう考えられますかとの質問には、大型店舗などは、その地域に愛着がある訳ではなく、経済として成り立たなければ撤退してしまう、それでは、地域に根ざすものとしては、いい迷惑でしかない。そうではなくて、地域を耕し、種をまいて育てていくと言った循環型の社会を作らない



と、日本の社会・経済は元々はそうであった筈で、アメリカの大量生産・大量消費型社会と言うものに対して、本当にそれで良いのかと言う事をもう一度考えなければいけない時期に来ているという思いがあり、其の一つとして『れとろ一ど』と言う小さい店舗が力を合わせる事業に取組んだ訳で、大きい物をどーんと作るより、その方がリスクが少ない事は明らかで、そういうものの考え方を地域に根ざしていく必要があると思い、それが、『れとろ一ど』と言う形になった訳で、本当であれば実際に現地を、また、働く人たちを見て欲しかったと答えられました。そうは言っても何でも揃い、駐車場も十分ある様な大型店舗や新しい物に飛び付く人たちが多く、事業の継続は大変だと思うがとの質問には、日々努力をし、変わっていく街を見ているのは楽しいですと、あっけらかんと答えていました。つまり、そう言った地域や人の連携、それによって形作られていく街や地域、それが日本らしさであり、何物にも代えがたい宝物だと言う事なのではないでしょうか。勉強になります。



総社市役所正門にて

と思っていたら、最後に少し大人しかった先輩が発言され、皆で総社市を真似しようと、1軒でも2軒でもいいから始めて、秦野は東京、横浜に近く、東海大学も、神奈川大学、上智大学もそして、高校も揃っている。そんな中から30、100を目指せばいいんですよね、と加藤さんに振られ、思わず加藤さんが、そうです、その通りです。その様に理解して頂けたら嬉しいですと答えられる内に、時間となりました。

視察終了後市役所玄関までお見送り頂き、写真撮影の後、是非秦野に行きたいです。秦野に行ったら案内して頂けますかとの加藤さんの問いに、いつでもいらっしゃる先輩の言葉を残して、総社市役所を後に

しました。総社駅まで送って頂いた後、15時23分総社発のJRに乗り、岡山駅を経由して姫路市に向かいました。姫路駅には16時56分到着し、宿泊予定のホテルに向かいました。

### 調査第3日目 2月24日(水)

今日は、視察最終日、相変わらずの好天に恵まれる中、視察地に出発です。今日の視察先は、姫路駅から5つ目のたつの市と近い事もあり、8時52分発の電車と比較的にゆっくりとしたスタートです。出発してから車窓の景色が都会からどんどん山間地へと変わり、結構田舎なのかなと思っていましたら、急に景色が開け街が現れたと思ったら、そこがたつの市でした。たつの市は、今回お邪魔した3市の中では一番大きく、人口81,815人と秦野市の半分ほどの市で在ります。たつの市とはどんな所だろうと思われるでしょうが、一番分かりやすいのは、街の中央を流れている揖保川だと思います。何所かで聞いた名前ですね。そうです、皆知っている、手延べそうめんの揖保の糸の産地です。また、薄口醤油で有名な醤油の産地であり、東丸醤油の地元でも在ります。本竜野駅に到着すると目の前に観光案内所があり、観光協会の方が丁寧に説明をされ、また、地域の名産品もたくさん売られていました。既に、事務局の方が迎えに来てくれましたので、早速そのマイクロバスに乗り込み、たつの市役所へ。到着後会議室に案内され、歓迎のご挨拶をお受けしたのですが、珍しく市議会議員直々のご挨拶でありました。

挨拶に立たれた角田 勝市議会議員は、よほどお腹が空いていたのか、用意してあったお菓子(秦野市から贈ったものか?)を頬張りながらのご挨拶で、むせたりつかえたりで苦労されていました。そして、議員の挨拶のあと高橋会長のお礼の言葉があり、次第に沿って視察に入りました。今回の視察議題は、『観光振興策に付いて』と『花によるイベント事業に付いて』の2項目であります。説明員は、真殿 基産業部参事兼商工観光課長で、たつの市さんも説明に先立ち、10分程度観光に関するDVDを流されました。そのDVDは、パシフ



会議室にて

イコ横浜で流されたプレゼン用のもので、社団法人日本観光協会が主催する第15回優秀観光地づくり賞において会長賞を受賞されたそうで、その受賞理由は、城下町(龍野)と海の宿駅(室津)として栄えた街並みなど歴史的資源、豊かな自然資源に恵まれ、住民組織が中心となり、街並みを生かした手作りイベントが実施されるなど、自治体をはじめとする各種団体及び高校生・専門学校生や産業界、また行政も一体(産・官・学)となつて、地域の特性を活かしたまりづくりが進められている、ということだそうです。DVD鑑賞後、たつの市に付いて少し触れられました。たつの市は1市3町で合併をした訳ですが、共通点が一つあつて、それは全て真ん中を揖保川が流れていると言う事で、揖保川によって合併が成り立つたと言えると言う事です。そして、たつの市は、合併した事によって2つの観光の顔(観光地)を持つ事になったと。その一つは、龍野城を中心とした城下町たつの。その面積は、55 haで(街内)核は龍野公園の16 ha。たつの観光全体の6割がこちら。そして、もう一つは、室津を中心とした海の顔で、関西随一の白浜海岸を持ち、新舞子海水浴場・潮干狩り等、室津と隣の新舞子浜(みつ)で観光全体の4割を占めるとの事です。また、たつのは、街並・景観を守り続けるために、城主が住んでいた脇坂屋敷など、売りに出た観光資源である町屋や武家屋敷を市が積極的に買い上げて取得し、無料公開をして来た。結果、その街割、道の大きさは、200年前と変わらず、従つて、今でも街の中には、大型バスは入れない。しかし、駐車場は無料、殆どの施設も無料。そう言った施策でここ20年間取り組んで来た訳で、何故そこまでするかと言うと、兵庫県の観光客動態調査(平成22年度)によると、現在たつの市には、年間228万人の観光客が来ていますが、悲しいかな10万人程度しか宿泊されず、通り抜けの街だと言う事であり。そこで、色々な観光振興施策を展開すると共に、たつの市には、現在、佐賀県唐津市の4軒に次いで2番目に多い、1市で3軒の国民宿舎(500名収容)があることから、滞在型の観光地を目指し、真の地域活性化を図るために、これから攻めに出るのだと言う事です。

いよいよ本題に入る訳ですが、視察項目の説明に付いてもその点を十分に意識されたものでした。まず一番目の視察項目『観光振興策に付いて』ですが、具体的な事例を挙げ、丁寧に説明されました。

### ① 地域の特性を活かした観光地づくりについて

#### (1) 脇坂5万3千石の城下町

4月の第1日曜は、但馬を攻めた時、豊臣秀吉からその功労を認められた脇坂5万3千石。その脇坂安政公が、寛文12年に龍野城を築城。当時の街並みがあるまま残っている城下町で、龍野武者行列(武者300人)。

(観光バス1日200台、河川敷駐車場と合わせ合計7000台収容の駐車場を確保)

◇藩主の上屋敷であった聚遠亭で琴などによる邦楽演奏

◇たつの市観光写真コンテストで市民から公募した写真を観光写真として活用し市内の名勝地8種類を100枚500円(税込)で販売、自治会、婦人会、市の職員、一般の会社等にも買ってもらい、市民総ぐるみでたつの観光ピーアールのお手伝いをしてもらう。

◇ひこにゃん、せんとくんに負けじと、たつの市のイメージキャラクターを募集。昨年の11月に決定し、現在は、名前を募集中2月28日に決定の予定。

それと合わせ、現在ミスたつのを募集中。現在33名の応募がある。その中から2名を選び、たつの市の観光大使として、たつの観光ピーアールのお手伝いをしてもらう。

ここで雑学を一つ。龍野城近くの梅玉庭園内には、世界でここだけという片しば竹が生息しているそうです。



武者行列ポスター



流し雛ポスター



街のキャラクター

ポスターを持っている方が真殿 基産業部参事兼商工観光課長

(2) 播磨の小京都

揖保川を利用して、高瀬舟（50 石）で京都に醤油や産物を運び、その帰り京都の人形や京呉服、小物等を持ち帰った。それでたつのは、呉服屋などがたくさん出来、周辺から人々が品物を求めに集まった。つまり、醤油文化が、京都文化を生んだ訳で、小京都と言われるゆえんである。

(3) 童謡の里

龍野藩の武士の子供として生まれた三木露風生誕の地。童謡赤とんぼ(作曲山田耕筰)の作詞者。22 年度予算においても三木露風生の生家を 2300 万円で買収予算を計上し、観光の拠点にする。

(4) 宮本武蔵修練の地

関ヶ原に戦いで西軍に付いていたが、敗戦。岡山に戻ろうとしたが、既に東軍制圧下にあり戻れず、18 歳から 22 歳までの 4 年間圓光寺で剣術を教えていた。ゆかりの武蔵太鼓（桜まつりにて）

(3)(4)を活用し、童謡の里、宮本武蔵ゆかりの地と言う事で宣伝。

(5) フーテンの寅さんの愛した町

昭和 51 年『男はつらいよ寅次郎・夕焼け小焼け』のロケ地（マドンナ太地喜和子）

(6) 海の宿駅室津

室津の名の由来は、三方を山に囲まれ、室（部屋）の様に風を妨げる津（港）であることからその名がついたと言われる。平清盛が京都から広島の大島に行く時に寄った港であり、朝鮮通信使が全部で 12 回来た内の 11 回をここから上陸、更には、当時、江戸に向かう西国大名は、瀬戸内海の海路を選びつつ、兵庫や難波津まで行かず、ここ室津に上陸して陸路に切り替え、室津街道を通過して江戸に向かった。そんな訳でここ室津には、たくさんの大名屋敷があった等々で、歴史が大変古く有名な港町。その時代にあっては西国一の港で、遊女発祥の地としても有名。人形浄瑠璃作者にして江戸元禄時代の俳句の 3 大大家でもある井原西鶴の好色一代男の巻五・三十一章に、その件が描かれている。

(7) シーボルトが歩いた町

シーボルトが立ち寄った町、生活していた町

(8) 花の町

これについては、後ほどの 2 番目の視察項目の方でと言う事です。

次に、

## ② 地場産業の振興策と PR 活動について

### (1) 醤油

平成 20 年度現在、12 社、従業員約 650 名、売上約 80 億円。揖保川の水を使い、初めは酒を作っていたが日持ちが悪いという事で、400 年前から醤油を製造、当初は濃い口であったが、醤油に甘酒を入れたら色を付けなくてもおいしくなるという事を発見し、300 年前から薄口の製造が始まった。また、地場産業と観光は深く結び付いていて、醤油工場の見学は無料、資料館は入場料 10 円だそうです。



会議室にて

### (2) 素麺（手延べそうめん揖保の糸）

藩主の保護のもと、播州平野の良質な小麦と播州赤穂の塩、それと全長 70KM、清流揖保川の水を使って農家の農閑期である 12 月から 3 月の仕事として始まった。現在では組合が出来ていて、姫路市、宍粟市と合わせてですが、500 社、従業員約 2600 人、年商約 160 億円  
毎年ミス揖保の糸を 4 名選んで、春先に仙台からずっとデパート等で PR をされているそうです。また、平成 10 年には、民間の力（組合）でそうめんの里資料館が出来、年間 15 万人が来場し観光の核となっているようで、東京にアンテナショップもあるそうです。

### (3) 皮革

揖保川の支流、林田川周辺に皮革企業が集まっており、全国に 350 社ある皮革企業の内 160 社がたつの市に集中、その規模は日本一。従業員数約 1050 人。成牛革の取扱量、全国の 36%（兵庫県全体の 6 割）を生産しています。

たつの市皮革祭りですが、10 年ほど前は最初たつの市だけでやっていた 3 千人しか集まらず、隣の姫路市でも皮革産業が盛んなことから一緒にやろうと言う事で加わってもらい、7 年前からは高校生が演出、製作、モデルを全部自分でやるファッションショーを始め、特産物の販売等で賑やかさも作った所、昨年は、2 万人も集客する祭りになり、売上も、300 万円から 2000 万円と急増し、11 月開催と言う事もあり、年末に向けての資金の足しにもなると業界からも感謝されているそうです。行政も全国に業者と一緒に出て行って職員を派遣し、商談会等に参加し PR をしているとの事。例えば、東京台東区の台東館（東京都立産業貿易センター）では東京レザーフェアに年 2 階、また、ジャパングリエーション（東京お台場のビッグサイト）への出品等にも参加しているそうです。

また、地域においては、革細工教室を実施しているようで、革細工の残りを利用してお年寄りにサルやトラなどの人形を作って頂いており、将来的には、それをお土産として売れるようにしたいそうです。そうすれば、お年寄りのボケ防止にもなるし、お小遣い稼ぎにもなると。現在までに市民を中心に 5 千人ほどが教室に参加をされていて、色々なイベント等にも出向いて頂き、周知にも努めている所だそうです、今後更に参加者が、増えるであろうと言う事です。既に成果として、コウノトリでお馴染みの豊岡市からコウノトリの人形を作ってほしいとの依頼があり、毎月数十個程送っているそうです。

## ③ 観光振興策について

### (1) 道の駅みつ

新しい観光の拠点として、本年 2 月 21 日に約 8 億 5 千万円かけて道の駅（海の駅）みつをオープンした。今のところ、警察から渋滞（5~6km）の苦情が来るほどの賑わいを見せているとの事です。

### (2) 本竜野駅観光交流施設

先程降り立った JR 本たつの駅が、3 月 13 日のダイヤ改正に合わせ新しくオープンするそうで、観光案内所

もそれに合わせてリニューアルし、新しい観光の拠点・情報発信地となるとの事です。

### (3) 観光案内版の整備と充実

駅を降りて観光案内所も無いとは何ぞやという事で、平成4年に本たつの駅に観光案内所を建てたのが始まりで、観光拠点整備だけでなく、来られた観光客に笑われない様に、観光案内版の整備と充実に今力を入れている所だそうです。

### (4) 観光サポートセンター14ヶ所と市民のボランティアによる観光案内所の新設

観光サポートセンター（城下町案内処）の新設に付いてですが、昨年ボランティアを募集した所、市民、企業14ヶ所から希望があり、今年の2月まで2ヶ月に一度の割で観光についての研修をし、この4月からこれを立上げ、観光客また市民にも、必要な時に、必要な所で、必要な情報が提供出来るように、ボランティアによる観光案内所を設置した。きっかけは高校生で、駅前には案内所はあるが、実際の観光地に入った所に案内所が無い。作ってくれと言う事だったのですが、それを市でやろうとすると案内所を建てるのに数千万円、維持費が年間数百万かかる訳ですが、現在市にそれだけの余裕は無い訳で、検討した結果、市民ボランティアに頼る事にしたそうです。

### (5) 観光資源の発掘

市民からの新たな観光資源の発掘提案、また、工場見学等、産業界の協力もお願いして行く。観光振興とは、新たに作ることも必要ですが、あるものを発掘する事が必要だと思います。例えば、揖保川の畳堤。現在全国では岐阜県の長良川、宮崎県の五ヶ瀬川、兵庫県の揖保川の3ヶ所でしか見られない、畳堤。普段は、景観を損ねない様に、欄干だけですが、川の水が増水し、氾濫しそうになったらそこに畳を差し込んで、堤防の役目をするというもので、たつの市それが一番長く総延長3kmあるそうで、既に新しい観光拠点になりつつあるそうです。

### (6) おもてなしの心（自慢と謙遜）

たつの市民は、たつこの観光は大した事ないと良く謙遜をする。是非、自慢してもらいたいと、しかし、故郷を自慢するには、良く知らないとおぼしめ出来ない訳で、そのために今、観光講座を2ヶ月に一度の割で実践編と個人編に分けて開設されているそうです。現在、観光ガイドを城下町に40人、室津に8人養成しており、ガイドの数としては十分間に合うのではと、おっしゃっていました。

### (7) イベントの誘致・映画・テレビ撮影隊の誘致

5月15日に新兵庫市を歩くと言うテレビ放送があり、200名の団体を撮影付きで誘致した所だそうです、今後もしやそんな努力を続けて行くそうです。

次に2番目の視察項目『花によるイベント事業に付いて』ですが、

- ① 4月第1日曜にたつの市さくら祭り（龍野会場・揖保川会場）、一目3千本と言われる桜の名所。ちなみに、市木は桜と梅だそうです。当日7万人、期間中15万人の人出。
- ② 4月中旬、東山公園つつじまつり（新宮会場）。4千人の人出。
- ③ 5月24日花と緑のフェスティバル（揖保川会場）。昨年度は、3千人の人出で在りましたが、今年度はインフルエンザのため中止。
- ④ 6月上旬・中旬、浦部紅花まつり（揖保川会場）1.5ha。
- ⑤ 10月中旬。菊花展（龍野会場・揖保川会場）1.7万人の人出。
- ⑥ 10月中旬～11月中旬。コスモスまつり（御津会場・揖保川会場）休耕田約3haにコスモスを栽培。
- ⑦ 11月中旬～12月上旬。紅葉狩り（龍野会場）。東山公園もみじまつり（新宮会場）、1.4万人の人出。
- ⑧ 2月下旬～3月中旬。みつ梅まつり（御津会場）1.4万人の人出。

その他梅に関しては、綾部山梅林 一目2万本と言われる27haの広大な西日本一の梅林

世界の梅公園 瀬戸内海を一望出来る展望台を囲む様に約350種1500本の世界の梅が年間6.5万人

- ⑨ 1月～4月上旬。みつ菜の花まつり（御津会場）。

何故、菜の花まつりかと言うと、2月20日頃来られても季節によっては、まだ咲かない時もある。そこで、がっかりされるといけないので、梅園の下の畑に約15haの菜の花畑を作り、菜の花を摘んで帰ってもらうにしている。3回位に分けて種をまくので、菜の花は4月頃まで咲いているそうです。以上が花のイベント事業ですが、その他にも色々なイベントが用意されていて、



藩主の上屋敷 聚遠亭

2月19日、20日、21日、商店や空き店舗を使って、街を美術館に見立てた街中美術館（市内35ヶ所）。初めは高校などを使って開催していたが、人が少ないという事もあり、学生からお年寄りまで皆でやろうと言う事になり現在の形に。3月21日春分の日、龍野雛流し（揖保川）。6月第2土・日、梅ちぎりまつり（御津会場）一人2kg無料お持ち帰り。7月19日、みつ海まつり（御津会場）1万人。7月25日、新宮納涼花火祭り（新宮会場）2.5万人。8月4日、龍野納涼花火大会（龍野会場）6万人。8月22日～8月30日、室津八朔の雛祭り（御津会場）全国でここだけ、真夏8月のひなまつり。10月3日・4日、観月の夕（龍野会場他3ヶ所）6千人。11月21日・22日、皮革まつり（龍野会場）2万人。オータムフェスティバル（龍野会場）6.5万人。他に、たつの商工産業祭り、たつの市民祭り、たつの市凧揚げ祭り、童謡の里かるたとり大会、室津かきまつり、梅と潮の香マラソン大会、しんぐう楽市楽座、室乃津祭等々、本当に多種多様、盛りだくさん、一年中お祭りと言った感じです。これらのイベントに対し、JR近畿圏の各駅に、ポスターを張ってもらう、また、パンフレットの配布をするなど、広範囲の集客に努めている所だそうです。

以上で説明を終わり、質疑に入りました。まず、

●テレビ撮影隊の誘致についての所で、フィルムコミッションの様な組織はあるのか、に付いて。総合計画等で上げていますが、負担金等が必要で在り、財政が厳しいと言う事で、予算が付きません。しかし、同じ様な活動はしています。東京たつの懇話会や観光協会にいる業界やそれに詳しい方々にお問い合わせ、情報を引っ張ったりPRをしています。

●観光振興に対する取組みは素晴らしいのですが、元々そうだったのですか、それとも合併辺りで変わったのですか、との問いには。

昔は、播磨の小京都と言われた位ですから、近郷からお金持ちが集まり、色街も大変栄えていたのですが、時代の変化とともに全く色気のない街になってしまい、これではいけないと言う事で、昭和26年、旧龍野市の市政移行と同時に観光協会を立上げ、姫路に負けてはいけないと言う事で、地道に取り組んで来た訳で、合併後は、全行的に知名度の高い赤穂市を抜くと言う事で努力をし、抜く事が来ました。そう言った地道な努力、独自色を出すんだと言った努力の結果、関西方面からの集客に成功した事、また、最近では和歌山県、滋賀県等、より広いエリアからお見えになって頂き、大変ありがたい事です。

●228万人と言うもの凄い数の観光客がお見えになっている訳ですが、市内の商業、産業等への経済効果の波及と言った点はどうか。

いい事を聞いてくれました。悲しいかな、たつのに来られるのはインテリの方が多いです。50代、60代、70代のご夫婦が多く、弁当を持ってきたり、コンビニで買ったりと、お金を使わないのです。

●それに対して、商店街などでは、具体的な行動や積極的な努力はされているのですか。

商店の大移動が起きていて、昭和40年代、それまで観光地であった川西の方が車が全然入れず、これ以上の発展が望めないと言う事で、川西の商店街を捨てて川東に出て来てダイエーとかジャスコと言った大型店を含めた商業地を形成しています。結果、元の川西の商店街は空き家になっていた訳で、そこを利用して、今、商売人や学生がいろんな仕掛けをし、それが認められてこの度の優秀観光地づくり賞の会長賞受賞になった訳で

す。

●今、温泉はあるのですか。

残念ながら鉱泉で温泉はありません。かなり（2000m）掘ったのですが、上がってくるまでにさめてしまい駄目でした。温泉があったら大部違ったと思います。ですから、姫路城や全国区の赤穂と違い、たつの市の様な所は、色々な観光拠点、施設を結び付けて合わせ技でやらないと駄目なんです。狭間でよく検討しているとは思いますが、あまり観光産業には結びついていない様に思います。観光振興と言うのは本当に難しく、観光産業では元は取れないのではと思います。

●課長さんはこの担当になってどれくらいですか。

2年です。2年で何故こんなに詳しいかと言うと、実はガイドをやっている担当の部長です。妻もガイドをしています。（一同関心）

●これだけの観光客が来ている訳で、もっと物が売れるんじゃないかと思うんですが。

一生懸命特産品の開発に取り組んでいるのですが、売れない。例えば室津の方では、カキを使った醤油やコロケ、また、梅ワインとかいろいろチャレンジしてみるんですが、ヒットしない。だいたい一人が使う金額は、1100円から1200円と言った所で、そこにしんどさがあります。

●観光地にとって景観や街並みと言ったものは、重要なんですよね。

もちろんです。観光地に来られる方は地域を歩き回られます。従って、点ではだめで、線でつながないと。出来れば面で。そして、5分くらい歩いたら見る所があると言った様な政策が必要だと思います。そして、其の間に案内所があり、寄って頂いたらお茶でも出して、ゆっくりしてもらおう。ガイドの人にもそう言ったもてなしの心を持ってもらう様に教育する。簡単ですよ、来られた時に、『いらっしゃい』と言えれば良いのですから。思わず、先輩議員から秦野にはそんな所があるかな、そんな心があるかなと、言葉が漏れました。

●国民宿舎が3つもあるのは十分売りになると思うのですが、その辺を利用した有効的な活用策はどうか。おっしゃる通りで、駅前の観光拠点と結んだらネットワークが出来る訳で、これからはいろんな仕掛けが出来ると思います。其の一つとして、たつの市は、坂が多くお年寄りには大変だと言う事で、実は去年タクシー会社をお願いして、観光タクシーを立ち上げてもらいました。しかし、普通のタクシーでは、まだ単価が高く付きますので、来年からはジャンボタクシーを入れてもらう事にしました。ガイド付きで、一人4000円で、半日ゆっくりと観光めぐりが出来れば利用があるかと思います。今後もそう言った観光の基盤整備を進めて行きたいと思います。

●国民宿舎はだいたいどれ位で、泊まれるのですか。

一人8000円位です。今は普通のホテルと同じ様なやり方です。しかし、経営的には、一般会計から補てんをしている状況で在り、そういった意味で観光振興と合わせ、経営の健全化を急がねばなりません。

●こちらは、農業も盛んなようで、今、体験農業やもぎ取りなどの観光農業が人気ですが、その辺たつの市では、如何ですか。

農家から田んぼをお借りし、都会から田んぼをやってくれる人を40組募集致しまして、今年で5年目になりますが、大変好評です。また、観光農園と言う事で2代前の市長が、イチゴ園を開設され、引き続き取り組んでいる所です。今後は、枇杷園やブドウ園とも連携を取って観光客を呼びたいと思います。

●そう言った生産者の年齢はどうですか。

高齢者が多く、そう言った意味では、後継者の育成がこれからの重要な課題です。

大変和やかで、盛り上がりのある質疑でしたが、時間になりました。以上で質疑を終了し、議場を拝見させて



龍野公園近くでは一般民家も

頂いた後、たつの市役所を後にしました。駅まで送って頂き少し時間があつたので、駅前の観光案内所に立ち寄りしました。先程話題に上った地域の特産品が、たくさん置いてあります。先輩2名が、お土産を買い始めました。一人の先輩は、スムーズに決まったのですが、もう一人が中々決まりません。皆待ってるし、時間ですよとせかし、やっと決まったと思ったら案内所のお姉さんが、名前が一字違いなもので、宅急便で送るのに、どっちがどっちだか分からなくなってしまい、説明するのも大変。本当にややっこしいです。そうこうしてる内に電車が来ました。全ての予定を消化し、事務局が用意してくれた切符を手に、後は秦野に帰るだけです。



一番前に再質問席が

12時1分、本竜野駅を出発し、姫路、新大阪と乗り継いで、午後6時34分小田原着。小田急線にて、其々の家路へ。お疲れ様でした。

今回、倉吉市、総社市、たつの市と3つの市を視察した訳ですが、どの市も秦野市ほど立地に恵まれず、また、周辺に産業も無い。ですから尚のこと観光に活路を見出そうとするのかもしれませんが、皆、歴史・文化を大切にし、自分達の特徴を良さを懸命にアピールしていました。単なる言葉だけでない、本当に夢に、可能性に賭ける。そして、それを一つ一つ実現していく。そのパワー、思いには、頭が下がりますし、勉強になりました。

秦野市も毎年の様に、観光は総合産業だとか、観光振興で活性化だとか言っていますが、ただ聞こえの良い言葉を並べるのではなく、1日も早く、そのための具体的なビジョン、数値目標を示し、責任の所在をはっきりとさせるべきだと思います。そうしないと、ただの都会に近いだけの街で終わってしまうと思います。そのためにも、今回視察にお伺いした3市の様な取組みを是非、参考にして頂けたらと思います。私達会派の議員も改めて観光振興と活性化の難しさを再認識させられた次第で、この経験を今後の取組みに活かして行きたいと思います。

以上で今回の視察報告とし、それぞれの視察先に関わる内容の資料を添えて、提出致します。

以上